

## 2025年万博基本構想検討会議(第4回) 議事録

### 【開催概要】

1 開催日時 平成28年10月28日(金) 14時30分～15時20分

2 場所 ホテルプリムローズ大阪 鳳凰の間(東)

3 出席委員

<有識者>

秋山委員、荒川委員、江原委員、太下委員、嘉名委員、澤田委員、玉井委員、溝畑委員、  
橋爪委員、宮田委員、森下委員

<行政>

新井委員、伊吹委員、田代委員(代理:種村副町長)、  
田中委員(代理:井上経済戦略局長)、田村委員、辻委員、野崎委員

<経済界>

出野委員、児玉委員、齊藤委員(代理:與口企画調査部課長)

### 【議事次第】

(1)2025 日本万国博覧会基本構想(府案)について

(2)その他

### 【配布資料】

資料1 : 「2025 日本万国博覧会」基本構想(府案)【概要版】

資料2 : 「2025 日本万国博覧会」基本構想(府案)

### 【内容】

○事務局

事務連絡、配布資料の確認

○秋山座長

それでは議題に入ります。議題1は「2025 日本万国博覧会」基本構想(府案)についてでございます。それでは事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局

資料2「2025 日本万国博覧会」基本構想(府案)についての説明

○秋山座長

ありがとうございました。ただいまご説明いただきました基本構想の府案に関しまして、委員のみなさまからご質問、あるいはご意見ございましたら、うかがいたいと思います。いかがでございましょうか。

○伊吹委員

経済産業省でございます。みなさん大変お疲れさまでございました。一つは、情報共有しておきたいと思いますが、パリの動きですが、9月の段階で数週間以内の早い段階で立候補することだったんですが、今の段階では立候補を正式にはまだされていません。11月23日にBIEの総会がございますので、多分その辺りをねらって、プレイアップしてくるんじゃないのかなと思っています。11月に仮に立候補してくるということになると、日本として立候補していくデッドラインというのが、そこから6カ月以内ということですので、5月くらいになるのかなと思いますので、これから色んな準備を国としても検討していかないといけないわけですが、そういうタイムスケジュールの中でやっていく必要があるのかなと思っています。もう一点情報共有ですが、パリの場合、資金の負担についてはあらかじめ合意をしているようでございまして、国と自治体と経済界で3:3:4という形で、一応合意をされているようでございます。日本も全体として協力してやっていかないといけないということですので、そういうことを考えていきたいということでございます。

それから基本構想の中身について、前回ここで色々な先生方から広く色々なことを考えた方がいいよということで、随分、テーマとかイメージについても広げていただいたと思いますし、それから地域の考え方についても関西で一丸となってやっていくんだということも入っていらっしゃると思いますので、素晴らしいものになってきたと思います。中身的には二つくらい申し上げておきたいと思うんですけども、これはもう基本構想後のことでもいいと思うんですけども、今後検討していくときに、オリンピックでもよくレガシーと言われるので、ベイエリア跡地利用について、これは国だけで議論して決められる問題ではなくて、地元の大阪府、大阪市がどうお考えになるのかというのがすごく大事なことだと思うので、それはよく考えながら、その中で万博を位置付けていく必要があります、考えながらやっていきたいと思っています。それから、随分もう具体的にしているの、サブテーマとテーマの連関ということには、これから検討していく中で細かく議論していければと思っています。以上です。簡単ですが、情報共有と今後の論点を出させていただきます。

○秋山座長

ありがとうございました。経産省の方から、追加の情報と今後の検討についての論点をご説明いただきました。ほかにご質問やご意見ございませんでしょうか。

事前に丁寧なヒアリングをしていただきましたので、みなさんおっしゃりたいことはおそらくそこでお話いただき、それがここに盛り込まれているのだと思います。これまでに委員のみなさまから色々なご意見を頂戴いたしました。この基本構想府案に概ねみなさんのご意見が反映されているというふうに私も思います。この会議は何かを決める会議ではございませんが、委員のみなさま、

この案を最終案としてご賛同いただくということで、よろしゅうございますでしょうか。

(委員一同から、異議なしとの声)

○秋山座長

ありがとうございます。それでは委員のみなさまからご賛同が得られましたので、この案を最終案としていただきたいと存じます。また事務局におかれましては、これまでにヒアリングで聴取された委員のみなさまからのご意見、本日の経産省からのご意見を、今後の構想を具体化していく中で、是非参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。これが今日の本題でございますが、その他に何か特にご意見がございますでしょうか。

○橋爪副座長

よい案になったと思っています。万国博覧会は国際的なイベントであり、参加国が、例えば 160 の国と地域くらいだと思えば、半年間、180 日間の会期のあいだ、連日のように、ナショナルデーがあり、その国のセレモニーが行われます。各国ともに担当の大臣級とか、著名な方々が大阪に来られる。そういう状況を、大阪は長く経験しておりません。2025 年万博は、大阪の国際化をもう一度きっちり考える機会になるので、多くの方の力を集めて実現できればと思います。あと、70 年万博のときは、現場に関わられた方々の話を聞くと、当時の 30 代、40 代、50 代の方が中心となった。大阪万博を契機として、飛躍され、世界的に活躍される方が、各分野から続々と輩出された。今回 2025 年万博でも、次世代、21 世紀後半の大阪・関西を担う人材が続々とチャンスをもらうような状況が必要。世界に羽ばたくような人が育つ場として、博覧会を位置づけるべき。基本構想にはなかなかその辺りが思いとして書き込めていないので、継続して主張してまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

○座長

ありがとうございます。はい、どうぞ。

○溝畑委員

このように素晴らしい案ができたことについて事務局など関係者の皆様に敬意を表したい。実は、私、2002 年の FIFA ワールドカップで、韓国と最後の一騎打ちの一年間熾烈なバトルをやりました。また、2020 年の東京オリンピックも、評議員でスペインとトルコと争って、これらの体験からの教訓として、今後、日本国内で機運を醸成していくかということがポイントであると思っております。

東京オリンピック招致のときは、東京だけでやるということで、実は最初それに賛同するという人はわずか 18% でした。これを上げていくためにやったのが、47 都道府県すべてののぼりを配って、各都道府県で東京オリンピックをやろうというようなのぼりを全国都道府県知事会で決定して、国民的な推進をしたのです。これからいろんな国際会議・国際イベント等を活用し、日本がオールジ

ジャパンでやるという姿勢を 2018 年に正式に決定する間に、戦略的にやる必要があると思います。

ここに書かれている食とスポーツ、というこの分野については、国際会議を誘致したり、関連イベントを積極的に行ったり、世界の中で認知度を高めることです。国内の機運醸成、是非、伊吹さんに頑張ってもらって、開催決定に向けて票読みを含めて、パリに絶対勝つため、国内の世論形成と海外的なプレゼンスを強化することなどを、オールジャパンで全力で取り組んでいくべきです。

#### ○秋山座長

ありがとうございます。これからのことについてご提案いただきました。

#### ○宮田委員

ありがとうございます。本当に前回出た意見も含めて取り込んでいただいて、非常に日本の将来を背負って、少子高齢化、人口減少、この課題解決に向けて、日本の将来を背負ってさえ、世界に出していく、それをこうテーマにさせていただいたなと思います。この万博、今回のテーマは改めてすごくいいと思うのは、このテーマに取り組むことによって、この大阪であり、日本に大きなものを遺していく。例えば、健康あるいは well-being に向けた、これから、明日からの取組みが招致に向けた大きなステップになっていくと。大阪がいうヘルシー、そしてハッピーなまちになっていくということ自体が、大阪にとっても価値を遺しますし、万博が終わった後にも、確実に価値になることですし、これは招致に向けて一丸となっていくような目標になりうるので、この大阪がやはりまずそこに向けて先端を切って飛び込んで行って、日本の将来を背負う、多くの支援を投入しつつ、それを日本の総意にしていく。そして世界に向けたアピールにつなげていくということが、非常にこのプランによって、実現可能なのではないのかなということを改めて感じました。

#### ○秋山座長

ありがとうございます。先ほど経産省の方から「跡地をどうする」ということがございましたが、跡地は将来も社会実験の場として、長寿社会の新しい生き方や社会の在り方を提案していく場として活用できればよいと、私も思っております。

#### ○玉井委員

何回も会合を重ねて、本当に作り込んでいった、あるいはできたと思うんですね。かなり色々な皆様のご意見を取り入れて頂いて素晴らしいものだと思います。事務方の方も、本当にご苦労様でした。私、この委員している関係で、一般の人、不特定多数の人に「万博ってというのは、どんなイメージですか」というようなことを色々インタビューしてみたんですね。若い人からお年寄りまで色々。そうすると、会議始めた頃はほとんど認識がなかったんですけども、知事が大分、広報活動していただいたおかげかもしれませんけど、結構の方が「万博やるぞ」という気持ちになってるんです。私はテーマがですね、少し重いいいいますか、ちょっと地味だというお話も、若い人を中心に

聞いてるんですよ。非常に崇高なテーマですね、私はいいと思うんですけど、表現の仕方とかアピールの仕方でもう少し若い人らが希望を持って会場に来てくれる、そういう仕組みを作らないといけないのかなと思うんですね。私、若い人に色々声をかけて、例えば「サポータークラブみたいななん作ったら、君たちは協力するんか？」という話を色々するとですね、みなさん「やりたい！」「やりたい！」って皆言うんですよ。だから何とかですね、もう少し具体的になったところで、そういう民の活動として元気な人を集めて、みんなで意見を出して盛り立てていくというようなことをやってもいいのかなと感じました。

#### ○秋山座長

ありがとうございました。どうぞ。

#### ○太下委員

大変よくまとまっていると思います。事務局の皆さんのご苦労も大変なものだったとっております。この資料2の14ページ目に「関西一丸となった取組み」という項目の例として、和食が挙げられております。先ほど溝畑さんから食に注目すべきというご意見がありましたけども、その点についてコメントさせていただきます。ご案内のとおり、昨年2015年にミラノ万博が開かれまして、テーマが食ということで、万博史上初めて食がテーマになったわけです。そのレガシーを引き継ぐという意味でも、和食については非常に注目すべきかと思うのです。また、ご案内のとおり、このミラノ万博の日本のパビリオンは大変高い評価を受け、金賞を受賞しました。私も実は行ってまいりましたけれども、パビリオンは朝10時に開く訳ですけども、10時の時点で、すでに長蛇の列ができていまして、最後尾に待ち時間の表示があるわけですけども、何と私が行った時には540分待ちという列だったんですね。朝10時で540分待ちですから、もし普通に並んでいるとしたら夜7時にならないと入れないという計算になります。その時、現地ではイタリア人も行列するのにかくらいしか私は認識をしなかったのですけれども、日本に帰ってきてから、これはものすごい熱烈的な日本の食文化に対する関心であり需要であると考えたわけです。そして、このことについては実は日本人はちゃんとリアルに認識していないのではないかと思います。同時に、万博はもちろんタダで入場できるものではなく、しかも実際に入場するのに時間がかかるわけです。有料で、時間をかけてまで入場したいという、これだけの需要があるのであれば、何で逆に日本に日本の食文化を紹介する施設、ミュージアム的な機能がないのだろうかと思ったりしました。この辺を今、逆に不思議に思っています。おそらく、この大阪万博のプランが実現化していく中で、パビリオンという形で日本の食文化を紹介する施設ができるのかと思いますけれども、こういった非常に高い関心とか需要を背景に考えると、単に万博のパビリオンという形だけではなく、もしかしたら万博の事前から、さらには万博のレガシーとしても残るような、普通の意味での民間施設として十分に成り立つものだと考えます。そういった観点で、開催前から始まるという新しい万博みたいなことも、食というテーマでやっていくと実現可能ではないかと思います。当然、観光施設としても活用できますし、教育機関としても機能が働くかもしれません。併せてこの食というのはすごいパワーがあります。世界の

教育文化・科学技術を所管する UNESCO という機関があります。日本では、世界遺産の認定でよく知られていますが、この UNESCO が食文化として認定する機能を持つてののです。実は食文化としてだけ認定する訳ではなくて、世界の文化都市を認定するというので、クリエイティブ・シティーズ(創造都市)・ネットワークという制度を新しく作った訳です。そこで、例えば万博をめざす活動の中で大阪の中の都市、大阪市がいいと思いますけども、大阪市が食文化都市を合わせてめざすということができれば、万博に向けてのムーブメントも、もっと色々な形で展開していくことも可能ではないかと思えます。いずれにしましても、この万博は非常に夢のあるプランでありビジョンであると思えますので、是非色々な形で実現していただきたいというふうに思えます。

#### ○秋山座長

ありがとうございました。どうぞ。

#### ○森下委員

大変いい案が出来上がったんじゃないかなというふうに思っています。やっぱりレガシーをいかにして残すかというのは大変大きな課題だと思うんですけども、前回の万博の時は太陽の塔が残ったというので、話しているとやっぱり皆さん太陽の塔に非常に思いがある。その後、大阪の北部は結局あの時にできた新御堂筋と北大阪急行で大きく北部に発展したという歴史があります。今回は逆に西部方面に対して新しい発展ができるんだろう。そんな中で、日本全体の話になると思えますけども、単純にやっぱり医療ツーリズムだけではなくて、もう少し発展した健康医療ツーリズムという一つの新しい牽引をつくる実験場になるんじゃないかなと。医療ツーリズムっていうのはやはり最先端における、どちらかというと病気の方にターゲットを置いた考え方なんですけども、健康医療ツーリズムという新しいアイデアの中ではですね、これから先病気になりそうな、或いはより楽しい生活を送りたい、もっと幅の広い方々が日本に来てもらえるような場にしたいんじゃないかと。そのためには、単純に先端医療だけではなくて、まさに今回の万博に見られるような、先ほどの食であったり、エンタメであったり、こういうものを通すことで、日本に来ると健康で元気になって帰れる、でそれを家族全員で日本に来て楽しむ、そうした場として万博をやはりやるべきではないか。そうすれば先ほどお話があったように、将来、持続可能な民間施設として十分機能するでしょうし、新しいタイプの博覧会に、健康医療ツーリズムという世界に発信する流れになるのではないかと考えておまして、是非そのアイデアを、これから先、国の方で決めていく中で日本全体から大阪府民の声だったり日本国民全体の声を色々と募集していただいて、企業の方々に新しい取り組みをどんどんしてもらったらいんじゃないかなというふうに思えます。特に国の規制等からんでおります、ドローンであったり、或いは新エネルギーであったり、全自動運転などの新交通システム、こういう実験場がやはりないという大きな問題がありますので、是非、万博特区という形で全てをゼロベースで見直していただいて、新しい未来都市、持続可能な健康医療都市という、そういう考え方で、是非日本中の叡智を集めて頂いて世界に発信できるような、むしろ新しくできた万博の健康都市では、世界にそのまま売り込めるような、そうしたような発展になれば私は

大変いいかなと思いますし、そうすると、日本経済の発展も十分まだまだいけるだろうと思いますし、インバウンドで6000万人を2025年にも達成できるのではないかと。是非、その前後を通して、この万博がある意味最終ではなくて、ここをレガシーとして全世界に打って出ると、そういうイメージの下では是非万博の構想をさらに深めていければいいんじゃないかな、というふうに思います。とはいえですね、溝畑さん言われたように、とりあえず今回はですね、絵に描いた餅になりますので、是非、取り急ぎ国には万博を招致するために頑張っていただきたいですし、さきほどもお話ありましたように、やっぱり国民的に盛り上げていきたいと。40才以上の方はですね、皆さん万博を経験して、非常にみなさんの乗りがいいんですね。40才以下の方は、万博も三波春夫さんも知らないという状況で、非常に年齢によってハードルが分かりますので、いかに楽しかったか、前回の万博の運営も共有しながら、国民的な運営というふうにしていただければと思っています。本当に色々まとめて頂き、大変ありがとうございました。

○秋山座長

ありがとうございました。

○澤田委員

関西広域で、全体でやりましょうということで非常にまとまりがいいんじゃないかなと思いますが、先ほども色々なお話がありましたが、参加する人ですね、これは要するにあるプラットフォームができたと思うんですけども、レガシーというのが残るかといえば、跡地が何かに施設として利用されるということだけではなくて、やはりそのコンテンツがどう残ってるかと、今先生の話がありましたけども、そういったことだと思うんですね。するとそのプラットフォームをいくら作っても、やはりその上で踊ってくれる、参加してくれる方が重要でございまして、そういう方達が、どういうプラットフォームがいいのか、むしろどういことがいいのか、ということ、ヒアリングといいますが、積極的にご発言頂いて、それを官の方が受け取る形で博覧会を作っていく、というのが恐らく新しい博覧会の作り方ではないかなというふうに思っていて、事務局の方が頑張って作った訳ですけども、できれば民主導の博覧会っていうのが出来上がって、それがソフトもハードもきちっと後に残って、モノもヒトもノウハウも残るような博覧会にできるといいなというふうに思っておりますので、できれば経済界の方も、色々負担をいただかないといけない訳ではないですが、積極的にとらまえて、今までのパビリオンを建てる博覧会が博覧会だけではないので、もっと色々な使い方があると思います。それを積極的に考える中から新しい博覧会、もしくは地域に役に立つ博覧会っていうのが、全く新しい形のもので出来上がると思っております。是非、積極的な参加といいますが、勝手連のような研究会でもいいんですけども、先ほど玉井さんの方から、若い人がサポーターになりたいっていうようなこともあるので、色々な人が色々な意見を出してですね、単に見に行く博覧会っていうのは開催する一年位前に考えたらいいんですけども、やっぱり参加する博覧会っていうものを積極的に考えて、私たちはこういう参加をしたいからじゃあ府はこうしてくれないとか、経産省はこうしてくれないかっていう形が出てくるとすごくいい博覧会になれるんじゃないかなというふうに思っ

ておりますので、そういう仕掛けを、今後府と経済産業省さんの方で考えていただけたらとても難しいなと思います。

○秋山座長

ありがとうございます。

○江原委員

私は東京から来ていますが、事務局の方が、こうした会議がある前にわざわざ東京まで足を運んで、事前に意見聴取されていましたが、あれには感激しました。おそらくあのようなご努力があったからこそ、こういった要領のよい、またわかりやすい基本構想ができたのかなとつくづく思っております。まず、そのご苦勞に対して、敬意を表したいと思います。いただいた基本構想はもう一度ゆっくり読ませていただきました。さきほど、内向きな広報というのが重要だという意見があったように思います。基本構想を読んで感じたことを正直に言わせていただくと、これからは大阪府として対外発信に努力してほしいと思います。今、世界をみるとグローバリズムが逆風に立っている、反グローバリズムの風潮が色濃くなってきているといわれます。私は、歴史の本流はまだまだグローバリズムだと思っています。大阪万博のテーマである健康というのはどこの国の誰もが望むものですよね。これはまさにグローバリズムの最先端をいくものだと思います。健康で世界は一つになる、ということを大阪万博で世界に発信することは、大きな意味があると思います。大阪万博の誘致にあたっては、その点を強調してほしいなと思います。これで閣議了解を取れると思います。取った後、開催権を取らないことには何の意味もなくなってしまいます。何の意味もなくなるというのはちょっと語弊がありますが、開催権を取る上で、重点的に働きかけなくてはいけない国というのがあると思います。中国もその国の極めて重要な一国だと思います。中国は上海万博で成功し、今や、万博大国になっています。BIEともかなり密接な関係をもっています。一昨日、そんな中国が「健康中国 2023」という計画文書を発表しました。かなりのボリュームで日本語に訳すと5万字ぐらいになるかと思います。その要点は、2030年までに平均寿命を79歳にするということです。今よりも3歳増えることになります。これは2030年までの計画ですが、これに限らず、2025年というのは、世界的に健康に縁のある、エポックメイキング的な年になると思われれます。大阪・関西で健康をテーマに万博をやるということは、まさに天の時であると思います。それから大阪・関西でやるということは、地の利もあると感じています。私は、京都で万博研究会の一員をさせていただいていますが、昨年、その成果発表ということでシンポジウムを開催しました。そこに、アジア人で初めてBIEの議長になった中国の呉建民氏をお招きしました。その時、私はまだこの委員ではありませんでしたが、「2025年の万博に大阪が立候補しようとしているようだ」とお伝えしました。さらに、「日中関係が良くないから、中国から支援票が取れるかどうか気になる」と伝えました。彼は私の質問に直接答えませんが、こういいました。「上海万博が成功したのは日本の大阪万博や愛知万博のおかげである。日本は、その時代、その時代に、世界に対して、問題提起をしてきている。きっと今度やる大阪の万博でも、日本は世界が『あっ』というような何かを発信してく



れるに違いないと、私は期待している」と言ってくれました。そんなことを思いだして、万博開催の  
対外発信は非常に重要だと改めて感じています。話は戻りますが、中国は1票じゃないと思いま  
す。そこをどういうふうに攻めて、表稼ぎをするのか、ここにも対外発信してテーマを共有  
する環境づくりが必要だと思います。この点について、これ(健康中国 2023)を見ますと、医療分野  
で海外の産業界と協力する、というのがかなり目立ちます。大阪・関西は医療関連の産業が盛ん  
です。中国の産業界と協力関係を構築するなど、大いにやったらいいと思います。最後に、私、田  
舎に住んでいますが、この間、小学校で話をしました。それから高校の校長経験者の理事会で話  
をする機会があり、2025 年の大阪万博の話をしました。残念ながら、そのことを知っている人はい  
ませんでした。でも、こうして立派な基本構想がまとまって、閣議了解を得られれば、そうした小学  
生や年配の方たちにも知ってもらえると思います。その意味で、対内発信も必要ですけども、同時  
に、この千載一遇の時に、天の時、地の利、そして、人の和は、ヒトの健康と置き換えて、大いに、  
世界にも、大阪万博の魅力を発信してほしいと、基本構想を読んで感じました。少し長くなりました  
が、以上でございます。

#### ○荒川委員

アカデミアの立場から発言させて頂きたいと思いますが、こういうテーマを選んでいただき  
て、大阪を場として健康長寿を目指すということは、非常にアカデミアにとっても気合の入るテー  
マでございます。特に、何回か前の会議でも申し上げましたけれども、日本は冠たる長寿国とい  
ことなんですが、大阪は平均寿命も健康寿命もワースト5に入っているという地域なんですね。で  
すから、実証実験するには、逆にいうと効果の出やすい地域であるということで、我々としては、ぜ  
ひとも万博が予定されている2025年までに一定の成果を出し、万博が実現すれば、その場で実  
際の数字を、どれくらい改善したのかということ報告できれば、世界に注目されることにもなり  
ますし、そういった取り組みが世界に広がっていくという発信地になると思うので、是非産官学  
連携でアクセルを踏んで頂ければありがたいなと思っています。

それと、こういうイベントでは、やはりキーワードは年寄ではなくて、子どもなんですね。で  
すから、健康長寿というのは非常に大きなテーマですけども、そこに子どもがどう関わるかとい  
うことが非常に大きなインパクトを持つと思います。例えば、健康長寿のものと子どもをつな  
ぐようなイベントとか、今、第4次産業となっていますが、そういうデジタル社会の弊害とい  
うのが子どもに伝わっていく時代でもあると思うんですよ、2025年というのは。そういった  
時に、アナログとデジタルをどう融合させて、温かみのあるいのちを育てていくかというの  
が、もう一つの大きなテーマ、ターゲットイヤーのテーマになってくると思いますので、こ  
どもというキーワードをインパクトがあるものにして、USJ でもいかに若い人を呼ぶかとい  
うコマーシャルで、必ず子どもが最後に「わお」と言うんですよね。そういう、子ども  
の目が輝くようなテーマがあれば、若者も集まってくるし、老人も集まってくると思  
うので、そういったところにちょっとターゲットを持ってきたらと思います。

最後ですけども、特に国際的なイベントになりますので、どういう言葉を使うかとい  
うことが非常に大事になってくると思うんですが、12 ページの「ウェルダリー」という  
言葉を私が提案したんで

すけれども、これはヘルシーエイジングの well と elderly のブレンドした混合語なんですけど、これは 2014 年の辞書にも載っている言葉なんですね。ですから、こういう新しいワードを使っていくというの、2025 年の目指す万博にとっては大事なんじゃないかなと思いますんで、あまり大きなことではないんですが、小さなことでワードの使い方というか、先を取り込んでいるようなキーワードをバンバン使っていってもらって、目を引くような宣伝活動をしていって頂ければありがたいなと思っています。以上でございます。

○秋山座長

ありがとうございました。

○嘉名委員

承認した後の方が、意見が言いやすいと言いますか、これまでの皆さんの案と言いますか、思いみたいなものを形にして頂いて、本当にいい案ができたと思っています。皆様と同じで、私もこれからの9年間というか、ここが勝負なんだろうと思っております。ともすれば、誰かがやっているプロジェクトで、それがうまくいかなくなると、冷ややかに見るというか、そういう風潮が無いわけでもないですね。そうじゃなくて、やはり自分たちの身近な問題であって、自分たちが関わるその9年間、何らかの形で関わることによって、いい万博にしていこう、世界から楽しんで頂く形で、いかに加勢できるか、そうやって舞い込んでいくというプロセスが大事だというのは、皆様の共通した思いかなと思っています。そういう意味では、健康というキーワードですけれども、かなりすそ野の広いコンセプトでいこうということになっています。いろんな業界の方々、専門分野の方々と対話をしながら、我々の分野はこんな事ができる、前回に少し我々街づくりの分野でもできることというお話をしたと思いますが、例えば心の問題となると、宗教界の方々からも、いいご意見を頂けたり、非常に幅広い対話というのがこれから大事になってくる。この9年間というのは、そういう意味では、いろんな方々と対話していくということからスタートしていくのかなと思っております。

それから、サポーターという話もありましたけれども、いろんな方々を巻き込んでいくということに非常に重要なのは、何か機会を作っていくということだと思うんですね。そこは実は前回は申し上げましたけれども、パリというのはうまくて、月に1回、シャンゼリゼを締め切りますというようなことをやりだしています。公共空間を人々の空間に戻していくみたいなことをやっています。いろんな布石を打っていくということなんですかね。だから、2025年に大阪が是非素晴らしい万博をやるんだということですけど、それまでにやはり重要なマイルストーンのようなものを置きながら、大阪は変わっていている、大阪は元気になりつつある、いろんな人たちが巻き込まれだして、動き出しているという、そういうトピックをちゃんと作っていく、そういうプロセスをデザインしていくということがこれから重要になってくると思います。以上です。ありがとうございました。

○秋山座長

ありがとうございました。

委員の皆様から、基本構想の府案に対しましてご賛同頂くとともに、これからの展開について、ご提案あるいは期待を非常に情熱をもって語って頂きました。わくわくするお気持ちが伝わってきます。基本構想をまとめるには非常に短期間でございましたが、各委員の方々はそれぞれのお立場から、非常にコミットメントをして、具体的なご意見をお示しいただきました。委員の皆様のご協力と、先ほどございました、事務局の極めて献身的なご尽力に心より感謝いたします。ここで基本構想の府案がまとまりまして、次は国のほうでご審議いただく段階になります。

それではこれもちまして、基本構想を取りまとめるための議論を閉めさせて頂きたいと思います。進行を事務局の方へお返しいたします。

#### ○事務局

ありがとうございました。委員のみなさまにおかれましては、これまでの検討会議でのご議論、本当にありがとうございました。それでは、会議を閉じますにあたりまして、最後に知事から一言ご挨拶申し上げたいと思います。

#### ○知事

検討会議の委員のみなさんには、6月から非常にタイトな検討スケジュールにもかかわらず、検討会議に出席をいただき、それぞれ委員のみなさんの様々な知見、皆様方のアイデアをテーブルに載せていただき、ここまで素晴らしい府としての検討案をまとめていただきましたことを、心から感謝を申し上げます。今後はできるだけ早い時期に、この大阪府案を国に提案をいたしまして、ご検討をお願いして、経産省のみなさん、是非よろしく願いいたします。委員のみなさんから頂いたご意見を参考に、今後の構想の具体化を図っていきたいと思っています。大阪、関西が一丸となって、というよりも、もうこれ日本万博なので、日本が一丸となって、スケジュールを定めて、もちろん候補地としてBIEに選ばれなければなりません、選ばれれば2025年というスケジュールが完成をいたします。これから9年間、ここへ向けて「健康・長寿」の幅広い分野、そしてもう一つ分野を掘り下げると、先進国ではもうまさに待ったなしの課題であります超高齢社会の様々な問題を解決する。超高齢社会に突入する、その時の問題点をどうするんだという話はもう平成のはじめから言われ続けてきたことであります。今日現在で言われたのは、団塊の世代のみなさんが、まずは65歳になったときにどうするんだと、今団塊の世代のみなさんは66歳になっております。これが、あと9年しますと、後期高齢者75歳に、その時にもう20年前から、平成になってすぐから、そういう問題は起こるであろうということは言われ続けてきたわけです。そして、その時からこれはなんとか色んな方策が必要だなと言われ続けてきましたが、やはりなかなか産学官すべてのそのに関連する様々な団体・組織が一つにまとまって、それを解決するプランを議論して、そのプランを作り出すといところはなかなかなかった。それぞれの立場で、官は官の立場で、産は産の立場で、アカデミアはアカデミアの立場で、色んな提言していたけれど、それが一つにまとまって、解決方法をつくりあげるというのは、なかなかなかったんですね。これ2025年、そういう期日が設定され、場所も設定されれば、この9年間まさに日本の叡智が一つに固まって、その問題に真正面

から取り組むという危機感ができるわけで、それができれば、僕は日本はこれからの超高齢化時代、まさに乗り越えられる処方箋をつくりあげることができると確信をしています。僕自身もこの万博の頃になりますと、還暦を越えるわけですけど、その頃には今の僕から 10 年前の僕の雰囲気に参加をすることで、そういう雰囲気を取り戻せる、そういう万博になれば、本当にワクワクするなと思います。委員のみなさんには、今後も引き続き、この日本万博実現に向けた強力なサポーターとして応援をいただきますように、よろしくお願いします。どうもありがとうございます。

○事務局

これもちまして、本日の会議を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

【閉会】